

緑 風

校訓 継続は力なり



鴻巣市立吹上中学校

教育目標

- ①進んで学ぶ生徒
- ②心豊かな思いやりのある生徒
- ③たくましい生徒

令和4年3月1日 第11号

守・破・離の3年間

校長 岡田 英行

弥生3月。北京では、冬季オリンピックに続いてパラリンピックが開催され、ウインタースポーツが真っ盛りです。本校でも、延期した2年生のスキー教室が迫っています。一方、本格的な春到来を告げるスポーツイベントも目白押しです。選抜高校野球、プロ野球の開幕も間近ですし、大相撲春場所も楽しみです。

相撲は伝統的な武道で、日々の鍛錬は技術を磨くだけが目的ではありません。礼儀や道徳を重んじ、人としての生き方を学びます。『3年先の稽古』という教えも、その1つです。今日・明日の目先の結果にとらわれず、遠い先の目標に向かって努力しなさいということです。『石の上にも3年』ということわざもあるように、頑張れば手が届くかもしれないという現実的な目標を「3年」先を目安にして設定するのは、相撲の世界だけではないようです。

私自身は、武道とはあまり縁がありませんが、唯一の接点としてかつて剣道部の顧問をしていたことがあります。防具の付け方すら自信がない身からしてみると、歴史ある武道の一端に触れたことは貴重な経験でした。姿勢を正して礼を交わし合う作法、練習後の黙想による静と動のけじめ、そして快心の一撃であっても緊張を解かない残心の心得等、今でも自らの戒めとしています。大会の会場に行っても学ぶことは多く、学校ごとに掲げられた横断幕に『平常心』『一意専心』等、武道の神髄を端的に示した言葉が並んでいました。最も印象に残っているのが『守・破・離』で、次のように剣道や茶道などにおける修業の段階を示しています。

- 「守」は、師や流派の教え・型・技を忠実に守り、確実に身に付ける段階。
- 「破」は、他の師や流派の教えにも触れ、良いものを取り入れ心技を発展させる段階。
- 「離」は、一つの流派から離れ、独自の新しいものを生み出し確立させる段階。

誰もが同じ道筋を経て成長する訳ではありませんし、どの段階に時間をかけるかは人それぞれです。それでも、この3つの段階を基本的な成長過程と考えてよさそうです。そして、この各段階は、おおよそ中学校3か年に当てはまると思うのですが、いかがでしょうか。

- 1年（守）は、小学校を卒業し、中学校の生活を確実に身に付ける段階。
- 2年（破）は、活動の幅と交友を広げ、心と体を充実・発展させる段階。
- 3年（離）は、様々な意見に耳を貸しながらも、自分なりの考えを確立させる段階。

来たる3月15日（火）は、卒業式です。入学以来の3年間、『守・破・離』の稽古を積み重ねた108名の卒業生は、それぞれが思い描く将来へ向けて巣立っていきます。

おかげさまで開校75周年 ⑩

南校舎に面した樹木園に、『継続は力なり』の石碑があります。昭和47年度の卒業記念として設置されたもので、当時の校長が口癖にしていた言葉を刻んだそうです。ご存知のとおり、『継続は力なり』は本校の校訓ですが、制定されたのは石碑建立よりずっと後の昭和59（1984）年5月8日です。校訓を定めたのはこの時の校長で、自分自身の体験を基にしています。

ある日、この校長が芍薬の苗を買ってきて自宅の庭に植えました。いつ花が咲くかと楽しみにしていたのですが、その年も、次の年もたった一輪の花もつけません。咲かないのなら抜いてしまおうかと思いつつも、巡ってきた3年目。とうとう念願の花が咲きました。直径20センチもある大輪の花で、しかも色鮮やかだったそうです。その見事さに感激した校長は、学校にある石碑の言葉を思い出します。最初は投げ出したくなっても、辛抱して続けることで逆に楽しくなって成功したという例がいくつも頭に浮かびました。ぜひ吹中生は、途中でくじけずに豊かな人生を歩んでほしいという願いから、石に刻まれていた教えに新たな命を吹き込み、本校の校訓としたのでした。芍薬が思いを遂げるのに要したのも、やはり3年でした。



